

## 第 | 部

# ピースメッセンジャーの 感想文

広島平和派遣についてまとめた「感想文」と派遣前・派遣後の平和への想いをまとめた「メッセージボード」を紹介します。



## 知ることと、最良の選択

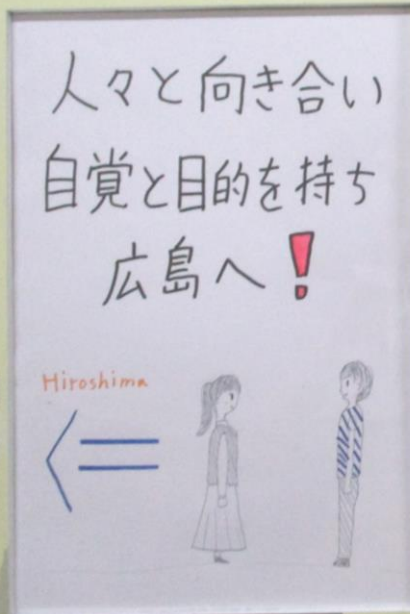
岩月  
莉々

私が広島平和派遣に応募した理由は、実際に原子爆弾を落とされた場所へ赴き、そのことに対する理解を深めたかったからです。私は以前から歴史に興味があり、それに関する本をよく読んでいました。私は文章だけでも十分物事を知れるのだと思ひたすらに文字から情報を得ていましたが、多くの本を読んでいくうちにその考えは変わりました。私が読んだ本は事実を淡々と綴った感情のないものから当時を生きた方の証言のある人々の感情を強調したもので様々でしたが、どれを読んでも「現実感」というものを感じられなかったのです。同じ土地でも当時の景色からは大きく変わり、人々も戦争を体験したことのない世代が多くなりました。ここまで変わってしまったのでは確かにそれが本当にあったこ

とだと知っていても、実感をもてないことは珍しくはないかもしれません。そこで私は遠くから見ているだけではなく、その地に行ってみたいと思うようになりました。当然広島だって数十年の時間が経ち街は変わっていますが、それでも「過去にそのようなことが実際にあった場所」というのは大切なことだと感じています。

そんな考えがあって私は広島平和派遣に応募しました。広島に行ってから原爆ドームや資料館などたくさんの場所を訪れました。原爆ドームは世界遺産に登録されていることもあってとても有名な建物で、勿論私も何回も写真で見たことがありました。その原爆ドームで私は自分の目で確かめることの大切さに改めて気づかされます。

## ピースメッセンジャーとしての私



私が広島に行った動機や行く前の意気込み

7月29日～31日  
広島に行ってきました



広島

私が広島に行った後に感じた変化と、考えているこれからの機軸

岩月 莉々  
調布市立第五中学校（3年）

実際に目の前にある原爆ドームは写真で見るとよりもずっと大きく言葉にできない雰囲気があります。資料館でも同じでした。被爆された方々の焼け焦げた遺品、ボロボロになった衣服、爆風で吹き飛んだ建物の残骸。どれもこれも私たちの日常からは切り離されたものでした。そのような非日常に自ら触れたそのとき、ほんの少しだけ「当時」の「現実」に触れたように思えました。似島では遺構巡りです。似島は自然溢れる島で、その景色は平和そのものです。そんな場所がかつて凄惨なことがあったとは教えられずまでずっと気がつかないでしょう。似島には昔戦争から帰ってきた軍人の検査をする陸軍の検疫所がありました。そのため大量の被爆者が似島に運ばれてきたといいます。ここで多くの人が亡くなりま

した。

派遣に行った3日を通して私は多くのことを学びました。知ることは人を正しい道へ導くことのできる唯一の術だと思えます。戦争に至るには過程というものがあり、結果としてなぜこうなったのか、簡単に説明できることではありません。本当に戦争を防ぎたいのならまず過去を振り返ってどうすることが最良の選択なのか、現実を見て考えることが最も大事だと思います。これから知る、学ぶを続けていきたいです。



## わたしが出来る事

小笠原直子

私は、小学生の時広島悲劇について少しだけふれた。その時は原子爆弾が投下された事やたくさんの人々が亡くなった事など主に事実についてふれた。でも今回の派遣を知って事実以外にも生き残った人の話や思いを知りたいと思った。

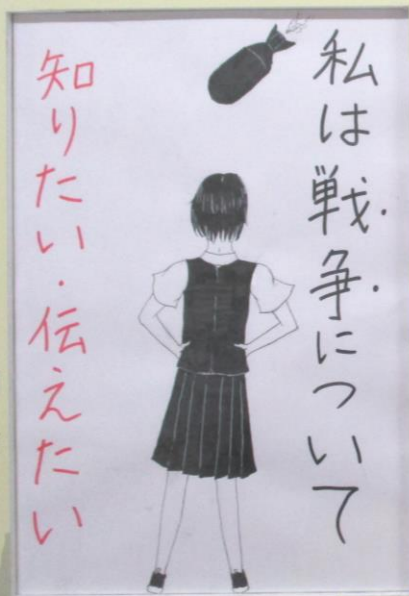
1日目は平和記念公園や平和記念資料館に行った。記念公園ではたくさんの方が信じられない程亡くなった事やここはまるで地獄のようだったと教えてもらった。資料館では目を覆いたくなるような見た事のない傷や死体たくさんの方の言葉が残されていた。写真やただの文章なのに喉の奥が締め付けられるような感じだった。

2日目は似島に行った。似島ではたくさ

んの怪我人が運ばれて来たらしい。その人達は、水を求めていたが放射線で飲んだら死ぬと考えられていたためもらえなかった。その当時の人達は、今の私達の身近ですぐに飲める水も飲めず苦しんでいたと知った。私は1番心に残った話がある。それはある少女の話だ。その子は麻酔をせず腕を切り落とし命が助かったという話だ。もし私だったら怖くてそんな事出来ないと思う。その少女の勇気はとてもすごいと思った。

3日目は被爆体験者の話を聞いた。その人も家族が亡くなったらしい。他にも「被爆者とは結婚しない方が良い」など差別的な事もされていたらしい。被害者なのに周りから冷たい目で見られるのはひどいし、おかしい事だと感じた。また、平和記念公園に

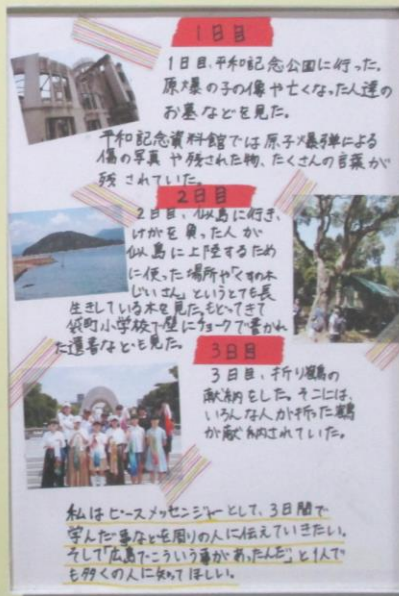
# ピースメッセンジャーとしての私



調布

私が広島に行った動機や行く前の意気込み

7月29日～31日  
広島に行ってきました



広島

私が広島に行った後に感じた変化と、考えているこれからの使命

小笠原 直子  
調布市立第六中学校(2年)

折り鶴献納もした。そこにはたくさんの折り鶴があった。こんなに広島のために折り鶴を折ってくれる人がいると知った。とてもキレイでたくさんの人の思いを感じられた。

私は、広島に来たのが初めてで、いろんな所に行けたりして楽しかったし、当時の人の気持ちも少しは知る事も出来た。最初は不安だったけどメンバーとも仲良くなれてすごく良い思い出になった。次は私がいろんな人にこの事を伝えていかなければいけないと思う。事実だけではなく、思い、気持ちなども知ってほしいと思った。





## 伝えたいこと

### 橘 周子

私が今回の広島平和派遣に参加した理由は前回の作文にも書いた通り、長崎の原爆資料館や祖父の体験談などでした。しかし、実際に行ってみて、強く思ったことがあります。それは、広島のこと、原爆のことを若い世代にもっと知って欲しいということです。

まず、1番最初に印象に残ったのは、第1回勉強会で聞いた話です。語り部の方のお話によると、当時は中学生もろくに勉強できず学徒動員で工場に行き、危険な作業をしていたそうです。私達も生まれる時代が違えばそうになっていたと考えたら、これは私達が今、真剣に向き合わなくてはならない問題なのだと思います。

その思いを抱えて広島に行き、最初に見学したのは原爆資料館でした。様々な展示物の中に、遺品とそのエピソードがあり、それがとても記憶に残っています。原爆が落ちる直前まで広島の人々は普通の生活を送っていたのです。遺品の中には、10歳にもならない子ども達のものもたくさんあり、ご両親の思いを考えると、やるせない気持ちになりました。

翌日、見学しに行ったのは似島です。そもそも似島自体を知らなかった私は、被害者がこの島に1万人以上も逃げてきたと聞き、とても驚きました。そして、逃げてきた人々の看病をしたのは島にいた少年でした。手記によると、たくさんの人の死体の処理など、辛い仕事もあったようです。中学生

# ピースメッセンジャーとしての私

Q, 広島へ行きたい理由

A, 長崎 → 行った  
広島 → 行ったことない

・戦後74年目  
被爆された方の話を直に  
聞ける機会がとんとん  
減っている!

広島で感じたことを  
ガールスカウト学校  
などで伝えたい

神代中2年 橋 周子

私が広島に行った動機や行く前の意気込み

7月29日、31日  
広島に行ってきました



1. 体験したこと

派遣中

平和記念公園 見学  
原爆資料館

被爆体験者講話

写真や展示物下、そこに暮らして  
いた人達の日常が一度では  
わかれなことを知る。  
自分に置きかえてみると、怖い。

自分の大切な家族や友人を失くさん  
矢い、その喪も結構と敬遠される  
など差別に苦しむ。

2. 派遣後

平和の聲はすっと受け継いでいかなければならぬ  
戦争を知らない私達の世代にも発信していきたい  
例) 学校ガールスカウト会  
CAPS報告会では精一杯体験を伝えたい。

橋 周子  
調布市立神代中学校(2年)

私が広島に行った後に感じた変化と、考えているこれからの使命

がそんなことをする世の中は2度と来てほしくないと感じました。

最終日、私達は折り鶴を納めに行きました。近づいてみると、そこには既にたくさんの鶴が納められており、平和に対する思いは皆1つなのだと感じました。

この3日間を通して私は、1度平穏が崩れてしまえば、自分も74年前の人々と同じ目にあうかもしれない、と、原爆や戦争の身近さを感じました。そして同時に、この平和は私達が支えていかないといけないものだ、ということ、を、ぜひ同世代の人にも理解して欲しいと思いました。

最後に、今回私がこのような多くのこと

を学べたのは、両親や市の方々の支援あつてのことです。今後私が平和を訴える活動に取り組むことによってお礼ができれば、と思います。本当にありがとうございました。



## 平和を伝えることの大切さ

### 中村月咲

私たちは調布市のピースメッセンジャーとして3日間広島へ派遣されました。

1日目は、平和記念公園と平和記念資料館に行きました。平和記念公園では、平和の鐘や、平和の子の像など、平和を願い、原爆によって亡くなった方をとむらうものを見て回りました。私は平和の鐘に興味を持ちました。この鐘には世界地図が描かれているのですが、それには国境がありません。これは世界が1つになり、みんなが平和になるよという願いが込められているそうです。平和記念資料館では、被爆直後の広島の様子や、被爆者の方々の遺品などが展示されていました。本館入口近くの展示では、CGによって原爆が落とされたときの様子が現されていて、一瞬で全てがなくなった様子が分かりました。

2日目は、似島と袋町小学校へ行きました。似島は原爆が落とされた当時、広島市内から多くの被爆者の方が運ばれ、野戦病院となった島です。似島では1万人に及ぶ被爆者が被爆後20日間で運ばれました。やけどや原爆症などにより、亡くなった方も多く、生きて似島を後にすることができた方は、2千人から3千人だと言われています。袋町小学校では灰が付き黒くなったかべに、白いチョークを使って小学校に通っていた生徒の状況や、親の現在住んでいる場所などをかいて、掲示板のように使っていたそうです。私は、これに1人1人の安否を書いていた先生達に驚かされました。

3日目は、被爆体験者の講話を聞き、原爆の子の像へ折り鶴を献納しました。被爆体験者の講話では、当時どんなところでど



# ピースメッセンジャーとしての私

調布市平和派遣  
令和元年度

私は、小4、5、6と  
毎年広島もしくは長崎  
の原爆の話聞く機会  
がありました。しかし  
本物を見たことはなく  
また、今以上に広島に  
ついて知りたいと思い  
参加することにしました。

調布市のみなさまに  
も伝えていけるよう、か  
んばりたいです。

私が広島に行った動機や行く前の意気込み

7月29日～31日  
広島に行ってきました



広島平和派遣で“学んだ”こと

1日目  
広島平和派遣で、広島平和記念公園を訪れました。平和の鐘という鐘には、世界地図が描かれていますが、その地図には国境が描かれていません。これは世界平和を願っている鐘だといえます。鐘を叩く前に手をあけて平和を願っているのが自分に届いている感じがしました。

2日目  
広島という原爆が落とされた街、野球場跡となつた島に、行まふの森史記小中学校という学校へ行きました。広島では何かが壊滅したことによって、多くの人が亡くなってしまったことがありました。/peace/と書いてあったとこれ、柱まで他の施設へ壊れたものは、ほとんどない感じがする。

3日目  
平和記念館 平和の鐘を、平和記念館の平和の鐘を見ました。そして原爆の3人の像へ祈りを捧げました。私は、神奈川県の市のお祭りにあった「さきの手紙が返って来ない」個人、の原爆はない」といふことが印象に残りました。

ピースメッセンジャーとして伝えたいこと

「ケンカはケ×。小学生なら石を投げて知っている言葉です。石を投げるすると、争いはケ×。となります。ケンカではなく話し合いて解決する、ケ×を使わず話し合いて解決できる世界を作っていくか、ないといけません」といいます。

これだけ終りにせず  
これからも学んでいきたい

私が広島に行った後に感じた変化と、考えているこれからの使命

調布

広島

んな被害にあったのかということを知りたくて話をしてくださいました。

この3日間で私の印象に残った言葉が2つあります。

1つ目は、「平和は1つの世代が作ったとしても、次の世代が平和でなくていいと思わなくなってしまう。次の世代もその次の世代も、みんなが平和であってほしい、その気持ちを糸をつむぐようにしてつないできた」という言葉です。私はこの言葉に確かにそうだなと思いました。平和が当たり前ということが、100年、200年と続けば、だんだん広島で起きた原爆が忘れられてしまうかもしれません。そしたら、平和である必要があるのか、という考えもでてくると思います。そうならないためにも、平和の大切さを伝えていかなければいけないと思

います。

2つ目は、「世界全体が幸福になれば、個人の幸福はありえない」という言葉です。世界各地では紛争などにより、自分の国に戻れないという人々もたくさんいます。そういう人々にとっての幸福は日本に住む私たちが当たり前のように手にしており、考えもしないようなことだと思えます。

他者の考えも尊重し、力にうったえずに解決する世にならなければいけないと思いました。



## 広島での衝撃

### 林 秋里咲

私が調布市の広島平和派遣事業に参加を希望したのは、ピースメッセンジャーとして、戦争、原爆についての話を学び伝える活動に興味があったからだ。そして、実際に現地を訪れて、原爆についての講話を聞いたり、原爆ドーム、平和記念公園、広島平和記念資料館、似島といった関連施設において、その実像を目にする度、「自分は何も知らない」ということに、がく然とすることになった。

一体私は何を伝えればよいのだろう。そして、私のこの衝動的な思い、「リアルな戦争というものを知らない」ということをどう伝えればよいのだろう。

1945年8月6日8時15分。広島で一体何が起こっていたのか。言葉、知識では知っていても、広島平和記念館で見た様々な

展示は、あまりにも無惨、残酷で胸をしめつけられるものであった。焦土、廃墟となった広島の様子がそこにはあった。

原爆は強烈な熱線と放射線と、超高圧の爆風を引き起こした。それによって人々の命は一瞬で奪われた。少し離れた所にいる人でも息絶えたり、ひどい火傷を負った人も多かった。木造の住宅は全壊した住宅が多かったという。

平和記念資料館には、原爆で被災してしまった人々のボロボロになった衣服や、放射線によって髪の毛が抜けてしまった少女、亡くなった方の写真があった。見るに耐えない原爆遺留物が多かった。原子爆弾が落とされるその瞬間まで、その制服を着た少年少女は普段の生活、日常があったはずだ。それは一瞬にして打ち砕かれた。

# ピースメッセンジャーとしての私

「戦争はしてはいけない」  
 誰もか分かっていると思う。  
 しかしなぜなら何故、今尚  
 世界では紛争などが続いて  
 いるのだろうか。  
 戦争は何故いけないのか。  
 平和とは何なのか。  
 口先だけではなく、  
 内面的に考えて来たい。

調布

私が広島に行った動機や行く前の意気込み

7月29日～31日  
広島に行ってきました



私は、広島で、原爆い  
 ームや、平和記念資料館、  
 似島、原爆の子の像などに  
 行った。



平和記念資料館へ行き、火傷を負った、火傷  
 がケロイドになってきた方などの実際の写真など  
 を見た。その写真からは当時の状況が伝わり、目  
 を覆いたくならないものだった。  
 本字にあたりたことなど、思うにはあまりに衝撃的  
 なものであった。  
 似島に行き、原爆が下った後、似島がどう  
 なっていたか、などの話を聞いた。

似島原爆が下った後、被災された人、腕のな  
 い、足のない方などがどど  
 人運は来てきたといふ。  
 そんな状況も繰り返さないために、  
 後世の人に原爆とはなんなのか、とだけ  
 悲惨なものであったのか、ということも、  
 グローブメッセンジャー  
 として伝えていきたい。



広島

私が広島に行った後に感じた変化と、考えているこれからの使命

その思いと魂はどこへ行ってしまったの  
 だろうか。ぼろぼろになった制服を見なが  
 らもっと生きたかっただろうな。悔しかった  
 だろうな。と私は思った。

広島では、被爆者の國分良徳さんの講  
 話をお聞きした。旧制中学校4年生であっ  
 た16才の時、朝、動員先の軍事工場へ出  
 かけようとした時に、1.8km地点で被爆し  
 た。國分さんは9人家族だった。しかし、原  
 爆によって母、弟、妹を亡くした。國分さん  
 も、原爆の爆風によって胸の辺りに破片が  
 ささったが、胸ポケットに定期入れがあった  
 ので、命が助かったという。國分さんの母  
 は家の下敷きになってしまっていた。母の  
 体を出そうとしたが、原爆による熱線が火  
 事がおこり、火がせまり来る中、逃げるより  
 他に選択肢がなく、見殺しにしなければなら  
 なかったという。どれだけつらい気持ちだっ

ただろうと思うといたたまれなくなった。一  
 家族をとっても、生き残った方と亡くなった  
 方がいるという事実。私は原爆のととても非  
 情な、無差別性を感じた。

罪のない沢山の人が命を落とさなくて  
 はいけなかった矛盾。今生かされている私  
 のこの命を、一生懸命に生きたいと思った。  
 そして私はこの夏の衝撃を絶対に忘れない。



## 他人事とは思わずに

樋口杏

私は今回調布市民代表として広島に派遣させて頂きました。戦争については2年ほど前から興味があり、自ら広島に行きたいと親にねだったこともありました。前回行ったときは改装中ということもあり原爆資料館の一部しか見ることができませんでした。その一部の他の展示を見たい、学びたいということが1番の申し込みをした理由でした。

しかし、広島に着いてからの生活の中で学べる充実した話や経験は悲惨なものでした。平和の鐘や原爆ドームを観光として見るのとはまた違った感覚でした。私が説明を聞いている間も、地元の人か観光客か定かではないが、写真を数枚撮り何かを考えるような顔1つせず去っていきます。

「他にも慰霊碑はあるのにどうして？」とそのとき思いました。しかし一昨年の自分を思い返してみると原爆ドームを見て同じようなことをしていた気がします。そこで私は気がつきました。この人たちは戦争について深く考えてここにきている人は少ないということ。他にも見るべき場所はあるはずなのにそれを見ていない、気づかないということはそういうことなのではないか、と思いました。

私自身1番印象に残ったものは多々あるが、その中でも特に國分良徳さんのお話心に痛めました。その話を聞いて、今同じことが起きたら、と身震いしてしまいました。國分さんが16歳のときに経験したと聞いたときも今の自分と年齢が近く、そのときに

# ピースメッセンジャーとしての私

広島に派遣されて1週間経つて  
 毎日も感謝しています。  
 ピースメッセンジャー(調布市代表)として  
 自分ができることを全力でしようと頑張っています。  
 7月の機会を通して  
 戦争について、平和の大切さ  
 命の尊さについて深く考え、  
 それを派遣するにあたっての自身の  
 目標、テーマをしようと思っています。  
 調布市歴史の資料館、平和公園、派遣先  
 業に参りました。  
 精一杯自分なりに頑張らせて頂きたいので  
 どうぞよろしくお願いいたします。

2019.07.23.

調布

7月29日～31日  
広島に行ってきました



私は今回の派遣で  
 調布に行くときは仲良  
 友が多いと見えていた  
 けれど、

一番印象に残っている  
 ことは、2日目の被爆体験者講話  
 でした。お話をしてくださった  
 園分さんからは「母が死んだ  
 場所をたどると、唯一の生き残り  
 と自分に言われていた。これを  
 言葉で伝えることが出来た  
 ことに感謝しています。

私がピースメッセンジャーとして  
 調布市民の方々に伝えたいことは  
 「戦争のことは歴史だけでなく、理屈ではなく、  
 自国の悪い歴史と他人への被害をお互に  
 検証しあうことが大切だ」ということ。  
 戦争は怖いこと、そして命の大切さを感じてほしい。  
 ということです。

今後、より多くの人が戦争について学んで  
 環境作りをしてほしいと思っています。

広島

私が広島に行った前後や行く前の気持ち

樋口 杏

私が広島に行った後に感じた変化と、考えているこれからの使命

母が死んで焼かれた、肌がめくれている人がたくさんいる、そんなものを見てしまえば気がおかしくなりそうです。どれだけ辛かったか私にははかりしれません。被爆体験者の人数は年々減少している現状で、園分さんのお話を聞けることはとても貴重でありがたいことだと思いました。

この3日間を通して調布市民の人に限らず全日本国民が戦争について学び、ふれられる機会を増やした方がいいなと思いました。私達の世代は特に戦争に関しての関心が薄く自ら学びに行くことはほとんどないと思います。自国で起こったことを他人事のように話す友達もよく見ます。そういう人達をふくめ、今後より多くの方が戦争、命の尊さについて学んでいける環境作りを

心から願っております。3日間貴重な体験ありがとうございました。

桐朋女子中学校(3年)